

令和5年度千葉県食品ロス削減ネットワーク会議での
コーディネーターによる意見の総括

1 今年度新たに始めた取組について

(1) 「ちばエコスタイル」協力事業者登録制度の見直し

- ・「ちば食品ロス削減パートナー」制度への改変については業態対象拡大に対する評価と期待が高く、評価されるべきと感じる。
- ・【専修大学 教授】の普及啓発・情報発信活動に関する提案、【イオン(株)】の要件に関する提案、【千葉県社会福祉協議会】の県民巻き込みの提案などは傾聴すべきもので、内容を精査し、できることは即、調整が必要なものについても可能な限り前向きに検討してほしい。

(2) 情報発信コンテンツ等の作成

- ・【イオン(株)】の指摘である好事例の掲載情報の充実と、SNSでの発信など露出機会の拡大、【千葉県社会福祉協議会】からの「例えば飲食店で「完食」したお客様にお店から会計時に「完食感謝ステッカー」のようなちょっとしたプレゼントを渡すなど、利用者にインセンティブを与えるようなアプローチ」は興味深い内容であり、可能な限り前向きに検討してほしい。

(3) 事業者等との連携による啓発

- ・【専修大学 教授】の、SNSを活用して若年層も巻き込みながら楽しい投稿を呼びかけ、協力してくれた人たちを「環境月間」、「3R推進月間」、「食品ロス削減月間」などの対面型の啓発イベントに招待して、ネットとリアルをうまく組み合わせた情報発信を行うべきとの指摘は的を射ており、検討してほしい。

2 今後予定している取組について

(1) 余剰食品の提供先に関する情報発信

- ・【専修大学 教授】や【イオン(株)】が指摘する通り、フードバンク団体が希望している食品内容や、要冷蔵・要冷凍を受け入れ可能かどうかなど、できる限り事業者・フードバンク双方にとって事前の情報交換の負荷が軽減されるような実務的な情報も掲載されることが望ましい。

(2) 飲食店経営者への直接的な普及・啓発

- ・この新しい取り組みに対する肯定的な評価が多かったことは評価されるべき。
- ・数名の委員から傾聴すべき意見があがっており、検討すべき。
- ・とくに、【イオン(株)】の生産・製造段階の事業者への普及・啓発の機会があるとよい、県で生産・製造と卸売・小売の事業者をつなぐ役割を担っていただけるとありがたいとの意見、及び【(株)吉野家】の過剰発注を削減するため、適切発注量の可視化システム等に関する情報を提供すべきとの意見は重要と考え、特に検討をお願いしたい。

3 その他

- ・特になし